平成 29 年度　地域文化学専攻・比較文化学専攻　学生派遣事業　研究成果レポート

髙野哲司

１．事業実施の目的

日本の都市の庭における人と植物との関わりを明らかにする。

２．実施場所

東京都台東区谷中、台東区立下町風俗資料館（東京都台東区上野公園 2-1）

３．実施期日

平成 29 年 6 月 6 日（火）から 6 月 12 日（月）

４．成果報告

●事業の概要

本事業の実施内容は、（１）東京都台東区谷中における住宅の庭の植物に関する聞き取り調査および（２）台東区立下町風俗資料館における資料収集の 2 点である。

（１）平成 29 年 6 月 6 日から 6 月 12 日まで東京都台東区谷中において、住宅の庭の植物に関する聞き取り調査を行った。具体的には、地域住民の方々の住宅を訪問し、庭の植物についてインタビューを行った。入手経路については、「その植物はどこから来ましたか。花屋などで購入されたもの、他の方からいただいたものはありますか」という質問を行った。植物の利用方法については、「食用や薬用、生け花に使われるなど、生活の中で何かに使われている（利用されている）種類はありますか」という質問を行った。聞き取り調査の際には、庭の植物の種類の記録や庭全体の写真撮影も行った。

また、地域住民の方々には、定住年数、庭の植物にまつわる思い出についても質問を行った。ヨモギなど庭に自然に芽生えてきたと思われる植物も観察されたので、入手経路、その利用方法について「庭に自然に芽生えてきた植物はありますか。何かに使われることはありますか」という質問を行った。ササなど日本の伝統行事に利用される植物、ガマなど薬用に利用される植物についても種類ごとに、その入手経路や利用方法について、可能な限り質問を行った。例えば、ガマについては「ガマは『因幡の白兎』に登場する植物ですが、ガマの穂を何かに利用されることはありますか」という質問を行った。

（２）平成 29 年 6 月 9 日には、台東区立下町風俗資料館（東京都台東区上野公園 2-1）において、東京都台東区谷中の長屋における植物利用に関する資料収集を行った。台東区立下町風俗資料館における下町の生活空間を再現した展示の中に、ユキノシタ、オモトなどの植物の鉢植えが展示されていたので、台東区立下町風俗資料館の専門員の方に、下町の植物利用について質問を行った。具体的には、「東京都台東区谷中では、ユキノシタなどの植物はどのように利用されていたのでしょうか」という質問を行った。

●本事業の実施によって得られた成果

以下に、本事業の実施により、東京都台東区谷中および台東区立下町風俗資料館で得られた成果を詳述する。

１．東京都台東区谷中における庭の植物と人との関わり

東京都台東区谷中の地域住民の庭における植物の入手経路には①購入、②贈与、③採集が確認された。①購入については、購入場所を居住者の方に質問したところ、シャクヤクなどを花屋で購入する事例、カキなどを種苗会社の通信販売において購入する事例、縁日でホオズキの一種を購入する事例が確認された。②贈与については、デンドロビウム、メキシコマンネングサなどを近所の住民に居住者が差し上げている事例が確認された。③採集については、和歌山県御坊市の自宅に生育していたアガパンサスを居住者が転居の際に根から採集し新居へ移動させ、新居において植木鉢で栽培している事例が確認された。転居の際に野外で植物を採集するのは、「故郷の思い出」の品として、新居に持っていくためであることが明らかになった。公園等に家族で遊びに行った際にヨモギを採集し、庭に直植えにして栽培されている事例も得られた。

報告者はこれまでに、地方都市である兵庫県明石市の地域住民が、植物を野外から採集して庭に植栽する事例を確認しているが、兵庫県明石市の採集の事例の場合、「花がきれいなので、庭で育ててみたい」という目的で採集されており、野外で植物を採集するという行為は同じであるが、採集する目的が異なっていることが伺えた。東京都台東区谷中における庭の植物の利用方法としては、食用ではヤマノイモのむかごやフェイジョアの花などが利用されていた。日本の伝統行事に利用されるササについては、今は花を生けるときに花が倒れないようにするための芯として利用するのみであるが、子どもが小さいときには、庭のササを七夕飾りに利用していたという事例が得られた。居住者が庭に自然に芽生えてきたネジバナを蕾が付いた状態で植木鉢に移植して、栽培し、花が咲くことを楽しみにしている事例も確認することができた。東京都台東区谷中では、今から 40 年ほど前に、庭にカラスがコンニャク芋をくわえて飛んできたことがきっかけで、庭にコンニャクが生育するようになりコンニャク芋を掘りあげて、食用の「こんにゃく」に加工し、友人や近所の方々に贈与している事例も見られた。薬用に利用されるガマについては、薬用には利用されていなかった。

２．東京都台東区谷中の長屋における植物利用

東京都台東区谷中の長屋における植物利用に関する資料を収集することができた。台東区立下町風俗資料館の専門員の方に「東京都台東区谷中では、ユキノシタなどの植物はどのように利用されていたのでしょうか」という質問を行ったところ、薬用に利用するためであることが明らかになった。台東区立下町風俗資料館の専門員の方との会話の中では、東京都台東区谷中の庭における植物と人との関わりを研究する上で重要な３つの知見を得ることができた。１つめは、ユキノシタなどの植物は、身の周りに多く生育していたために民間薬としての利用を目的として野外で採集され、長屋で栽培されていたということである。２つめは、東京都台東区において、観賞の対象とされるサクラやハスもかつては薬用に利用され

ていたということである。３つめは、報告者が台東区立下町風俗資料館に展示されているユキノシタの実物を閲覧時に、東京都台東区谷中ではドクダミやユキノシタの花が観賞されている事例があることを伝えたところ、台東区立下町風俗資料館の専門員の方から「ドクダミやユキノシタを観賞するということでしたら、江戸時代に行われていた「苗売り」は１つのキーワードではないでしょうか。「苗売り」とは、ヘチマやマツバボタンなどの植物の苗を売る商人のことです。」というコメントをいただいたことである。

●本事業について

この度は、学生派遣事業を活用させていただいたことで、東京都台東区谷中と台東区立下町風俗資料館（東京都台東区上野公園 2-1）で現地調査を行い、研究を一歩前に進めることができました。深く感謝いたします。